令和7年度 事業計画書

公益財団法人千葉県文化振興財団

令和 7 年 度 事 業 計 画

0

I 趣 旨

公益財団法人千葉県文化振興財団は、文化芸術を普及振興し、県民の自主的文化活動を支援することにより、生きがいと潤いのある世界に開かれた文化県千葉の建設に寄与することを目的として、文化芸術の創造・振興、鑑賞普及、文化芸術活動の支援及び人材の育成などを行うとともに、文化芸術拠点施設の管理運営事業に取り組み、千葉県全域の文化振興に努めてまいります。

令和 7 年度は、千葉県の新たな文化芸術推進基本計画を踏まえ、引き続き経営計画に基づく下記の方針により事業を実施します。

- 千葉県と共に進める文化芸術の振興
- 県民の誰もが文化芸術を享受できる環境づくり
- 社会的課題や県民ニーズを踏まえた事業展開
- 千葉県の文化振興を担う若者及び専門人材の養成
- 各種団体との連携・協働による事業の展開
- 県内の貴重な文化資源の活用と承継
- 千葉県立文化会館を千葉県の文化振興の拠点として活用

千葉県文化会館と青葉の森公園芸術文化ホールを中心に、県立文化会館の有機的なつながりを強化するとともに、これまでに構築してきた多方面とのネットワークを活用し、連携をより一層深めながら県内全域において幅広い事業展開を図っていきます。また、当財団設立 40 周年、千葉県少年少女オーケストラ結成 30 周年及び千葉県文化会館の約 2 年に渡る大規模改修工事からのリニューアルオープンを迎える記念の年として、多彩な事業を実施してまいります。

文化施設の管理運営については、県民が安全に安心して快適に過ごしていただける環境づくりに努めながら、質の高いサービスの提供と県立文化会館の連携を強化します。設備の予防保全に取り組みつつ、安全面では台風や地震などの自然災害に備えて日ごろから訓練を行い、職員の危機管理能力の向上を図ります。

引き続き、県民の文化芸術活動の活性化を目指し、千葉県の文化芸術の振興と公益の増進につながる重要な役割を果たしてまいります。

II 事業概要

I. 文化芸術の創造、振興及び鑑賞普及事業

(1) 創造・振興事業

財団が企画や制作力を発揮し、これまで構築してきた文化団体、実演芸術家、文化施設、千葉県、市町村、市文化振興財団、企業、大学等とのネットワークを活かしつつ、さらに発展させることで、多くの県民が文化芸術に触れ親しむことができるよう取り組みながら、新たな「ちば文化の創造」につながる事業を実施します。

「おやこ de オペラ」公演は、県内各地の文化施設と連携し、6会場で開催します。

創作狂言公演は、白木総檜造りの本格的な組み立て式能舞台を活かし、千葉大学やNPO法人と連携して市川市に伝わる「八幡の藪知らず」を題材に大学生や県民と共に制作・上演します。

また、音楽や身体表現を取り入れた子ども向けのダンス公演や脚本家・プロの役者と共に脚本づくりを知るワークショップなど、鑑賞だけではなく体験を取り入れることで、子どもから大人まで楽しむことができる事業を展開します。

(2) 鑑賞・普及啓発事業

千葉県の文化芸術の発信拠点として、多くの県民が優れた文化芸術を鑑賞できる機会の充実に取り組むとともに、文化団体や企業等とも連携して、県民のニーズに応える様々なジャンルの公演を実施します。

舞台を通じて子どもたちに感動を届ける、小学生を対象とした学校単位での招待公演のほか、誰もが文化芸術に触れることができる環境を整える取組みとして、社会福祉施設などに出向いて公演を鑑賞する機会を提供します。

また、幅広い世代の鑑賞ニーズに応える公演や県民が文化芸術活動を始めきっかけとなる公演、気軽に参加できる普及啓発型の事業を実施し、県民の文化芸術への関心を高めます。

さらに、次代を担う子どもたちが優れた舞台芸術公演に触れることができるアウトリーチ事業を県内各地で実施します。

(3) 県民参加事業

文化の担い手である県民が主体となって文化芸術活動を活発に行うきっかけをつくり、文化芸術の裾野の拡大を図ります。また、文化活動を通じて地域社会への参加を促進し、地域のコミュニティ形成にも大きな役割を果たせるように人材の養成に努めます。

舞台芸術企画募集事業では、県民の文化活動を支援するために、公募によって採択した新たな「ちば文化の創造」が期待できる企画に対して、文化会館を活動の場として提供し、各館との協働作業を通じて上演します。

南総文化ホールに加え、新たに東総文化会館でも実施する「魅力発見!舞台の仕事体験!!」では、普段は見ることができない舞台裏の見学や仕事内容の体験によって、ホールを身近に感じてもらい、地域住民が文化芸術に興味を持つきっかけづくりや自主的文化活動の活性化につなげます。

「千葉県と共に進める文化芸術の振興」という方針から、県が主催する文化芸術事業については、企画や制作等でこれまでの経験やノウハウを活用し、県の伴走者としての役割を果たしていきます。

2. 文化芸術活動の支援及び人材の育成事業

(1) 支援・人材育成事業

幅広い文化芸術分野において若い才能を発掘し、その才能を伸ばすとともに、千葉県出身のアーティストが多く、多くの県民に注目される舞台上で活躍できるよう支援を行い、千葉県の文化芸術の活性化に努めます。また、県内外で活躍する実演芸術家を育成していくため、文化会館を活動と発信拠点の場として提供します。

国内外の著名なコンクールで優秀な成績を収めている千葉県にゆかりのある若手演奏家と千葉交響楽団が共演する「第38回若い芽のαコンサート」を千葉県文化会館で開催します。

県東部地域の吹奏楽部や楽団が出演する吹奏楽の祭典「RISE Project TOSO 吹奏楽フェスティバル」では、学生を中心とした制作委員会を立ちあげ、公演実施に向けて企画・運営を行い、次代の文化芸術を担う人材の育成を図ります。

千葉大学や千葉経済大学などとの連携協定に基づくインターンシップ実習生や、中高生の職場体験などを積極的に受け入れるほか、大学に職員を講師として派遣し、文化芸術や公演制作に関する講義を行うなど、学生が積極的に文化活動に携わる機会を設け、アートマネジメント人材の養成にも取り組みます。

(2) 千葉県少年少女オーケストラ事業

多くの音楽関係者などから高い評価をいただいている千葉県少年少女オーケストラは、団員を県内全域から募集し、「よい音で、よい演奏を」をモットーに、次代を担う青少年の豊かな音楽活動を促進しています。

国内外で活躍する一流の指揮者や演奏家を招き共演することで、団員の演奏技術のさらなる向上と一層充実した演奏会の開催を目指します。

結成30周年を迎える令和7年度は、公益財団法人日本音楽財団と協働し、国内外で活躍するヴァイオリニスト・大谷康子氏による公開演奏指導「合奏クリニック」を実施するほか、指揮に下野竜也氏、合唱に新国立劇場合唱団を迎え、年間活動の集大成となる「第30回定期演奏会」を千葉県文化会館で開催します。

そのほか、支援組織である「千葉県少年少女オーケストラを支える会」の充実にも努めながら、オーケストラ活動の普及と振興を図ります。

3. 文化芸術資源の調査研究及び活用事業

(1) 資源活用事業

伝統的な日本の風物詩の制作体験や県内の観光資源などを活かした事業を通じて、千葉県の魅力の再発見や地域の活性化につなげます。

地域の歴史や魅力ある観光資源を紹介する「ふるさとミュージアム」やアートギャラリーによる文化芸術の紹介を行うほか、日本を代表する弦楽四重奏団「クアルテット・エクセルシオ」や「邦楽四重奏団」をはじめとする演奏家やアーティストらによる、県内の文化施設や「ちば文化資産」、観光地などを活用した「ちばめぐりアウトリーチ」公演を開催します。

(2) 伝統文化振興事業

長い歴史と伝統の中から生まれ、大切に守り伝えられてきた伝統文化を貴重な財産として次世代に承継していきます。専門家や文化団体とのパイプを活かしながら、多くの県民が伝統文化に触れ、親しむとともに、特に次代を担う子どもたちの関心を高め、伝統文化の承継・発展・発信につながる事業を実施します。「能へのトビラ」では、年間を通して、宝生流若手能楽師による分かりやすい解説付きの初心者向け能鑑賞公演やワークショップ、小学校での体験教室を実施することで、子どもたちの関心を深めることにつなげ、次世代への伝統芸能の普及・振興を図ります。

4. 文化芸術情報の収集及び発信事業

より多くの方にご利用・ご来場いただくために多様な媒体を活用した広報として、ホームページや Facebook、X、Instagram、財団広報誌「ちば文化だより Mille feuilles (ミルフィーユ)」の発行などにより、会館の取組や公演情報、ちばの文化情報を提供します。

公演・イベントごとの広報宣伝活動に加え、年間公演を一括掲載したイベントカレンダー、千葉日報「文化のかおり」への掲載をはじめ、マスメディアと連携した情報発信にも取り組み、YouTube を積極的に活用しながら「映像のアーカイブ」を推進します。また、企業の協力を得て、百貨店でデジタルサイネージによる情報発信を行います。

さらに、千葉県内の文化会館などの公共施設の管理・運営を行なっている 12 団体によって構成される「ちば文化振興ネットワーク協議会」を通じて、県内のイベント情報を県民に提供します。

5. 文化芸術振興のための国内外との交流事業

県民やアーティスト、文化団体などが、県外や海外の方との交流機会を持つことで見聞を深め、世界に開かれた文化県千葉のレベルアップにつなげるとともに、日本や「ちば文化」の魅力を国内外に広く発信します。また、公演や取組みを通して国内のホールや公共施設との連携を深めていきます。

アメリカ発のプログラム「HEART Global」は、小中学生を募集し、歌やダンスなどのワークショップを通じて成果発表を行います。

「あおばまつり」では、青葉の森公園内の管理事務所や千葉県立中央博物館と連携し、文化芸術活動に触れることができるイベントを開催します。

6. 文化芸術拠点施設の管理運営事業

(1) 安全な会館運営

文化会館は、日々、様々な催し物が開催され、不特定多数の県民が利用することから、安全を第一に考え、誰もが安心して利用できるように専門性の高い職員を配置します。

施設の危機管理対策として、消防法に定められた避難訓練を年2回実施するとともに、夜間の利用を想定した少人数体制での訓練も行い、危機管理対応力の向上を図ります。職員は、緊急時に落ち着いて防災行動が取れるよう、「防災カード」を常時携行し、防災意識を高めます。避難誘導體制やAEDの設置場所などを主催者と共有し、万一けが人や急病人が発生した場合には、消防や医療機関と連携し対処します。また、緊急時には国民保護法に基づく避難施設としての役割も果たします。

千葉県文化会館及び南総文化ホールについては、災害発生時には県の要請により、帰宅困難者の一時滞在施設として開設します。

青葉の森公園芸術文化ホールは、千葉市の避難所として指定されており、災害時には避難所運営委員会のメンバーとして安全に努め、運営にあたります。

設備面においては、予防保全を第一とした管理に努めながら、施設維持管理年間作業計画に基づき、施設や機器の状態を常に把握し、安全性を高めます。簡易な修繕は迅速に実施し、規模の大きな故障などが発生した場合でも県と復旧策を協議して、運営に支障のないように対処します。

不審者・不審物の対策として、防犯カメラや警備員による監視に加え、職員の意識強化を図り、より安全で安心できる会館運営に努めます。

(2) 県民に愛され、親しまれる会館運営

職員一人ひとりが高いコンプライアンス意識を持ち、条例や規則をはじめとする法令を遵守し、県民の平等な利用の確保に努めます。

多様性を尊重し、すべての利用者に対しておもてなしの心、思いやりの心を持って接するとともに、快適な空間をご利用いただけるように施設環境を整備し、ホスピタリティマインドの高い会館運営を行います。初めてのお客様が施設を利用する際には、専門性の高い職員がイベントアドバイザーとなって、利用に関する要望をワンストップでサポートします。

外国人の利用に対応するために、多言語に対応できるタブレットやコミュニケーションボードを設置するとともに、案内表示の充実を図り外国人向けのサービス向上にも取り組みます。

そのほか、職員が舞台技術の資格取得やアートマネジメントなどの各種研修会に参加し、研修後には報告会を行い全職員が成果を共有することで総合的な会館運営能力の向上に努めます。

(3) 特色ある会館運営

千葉県文化振興の拠点として、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々に賑わう会館となるように、県民のニーズを的確に捉え応えていきます。利用者の期待以上のサービス提供を心がけるとともに、充実したギャラリー展示やロビー活用にも力を入れて親しみやすい会館運営に努めます。

千葉県文化会館では、大規模改修工事を終え、安心安全な施設設備に加え、これまでに蓄積してきた知識と経験を基に、利用者の期待以上のサービス提供を心がけます。また、全国公立文化施設協会との連携を活かし、全国の文化芸術拠点施設等へ千葉県の文化芸術を発信していくほか、県内文化施設に国や県の施策等に関する情報提供、舞台技術や文化に関する研修会の実施を積極的に行うなど、千葉県の文化振興の中心施設としての役割を果たします。また、千葉県少年少女オーケストラの活動拠点として、練習会場の提供をはじめ、楽器の管理など、充実した活動ができるようサポートします。

東総文化会館では、県東部地域における拠点施設として、近隣の文化施設との連携を深めていきます。さらに千葉県東総文化会館利用協議会を通じて、近隣の自治体や東総地区広域市町村圏事務組合などと文化施策についての情報交換を行い、文化ネットワークを活用した地域振興に取り組みます。

南総文化ホールでは、県南部地域における拠点施設として、周辺地域との連携を構築しながら文化芸術活動を創造・普及・発信するとともに、県民が愛着と誇りを持ち、あらゆる人々が集うことができる地域に根差した施設として管理運営を行います。

青葉の森公園芸術文化ホールでは、伝統文化の拠点施設としてさまざまな団体と連携して事業を展開し、文化ネットワークの形成および構築を推進するとともに、公園内の立地を活かした県民に親しまれるホール運営により地域の活性化を目指します。

7. 法人運営

(1) 人材の育成、組織の活性化

職員は、千葉県の文化振興を担う専門知識を有するプロフェッショナルであるとの自覚を持ち、舞台技術の資格取得や文化芸術の知識を広げることとはもとより、接遇マナー、緊急対応、国や千葉県の文化施策の理解を深めるなど、幅広い分野にわたって職員一人ひとりの資質の向上に取り組みます。

研修の実施にあたっては、内部での実践形式によるOJTや外部講師から学ぶOff-JTなど、様々な研修内容を体系的に分けて効果的に実施し、知識や技術、マネジメント能力を向上させ、職員全体のスキルアップを図ります。さらに、メンター制度の活用により、先輩職員が後輩職員をサポートすることで「働きやすい・働きがいのある職場づくり」を推進していきます。

また、職員が法令を遵守し、公益財団法人として社会常識や高い倫理観を保持しながら、施設の安全や県民サービスの向上に取り組むなど、健全な組織運営に努めます。

(2) 経営の安定

県民の期待に応える文化芸術の振興と公益の増進につながる重要な役割を果たすため、安定した経営基盤の確立に努めます。

収入増加に向けたファンドレイジング活動では、財団の活動を理解し協力していただけるよう丁寧な説明を心がけ、公益財団法人の優遇税制措置を活かした寄附金の獲得、質の高い公演の企画による国や県、民間団体などからの助成金の獲得にも取り組みます。

また、会館運営においては定期的に利用されるお客様に最新の空き状況を提供し、利用と収入の増加につなげます。

オンライン会議の実施により、資料のペーパーレス化や出張旅費の節減など、事務改善による徹底した経費の削減を図り、効率的な組織運営を通じて、経営の安定化に取り組みます。